

第1回多古町総合振興審議会・多古町総合戦略推進会議

開催日：令和6年8月1日（木）
会 場：多古町役場 第4会議室
時 間：午後1時30分～
出席者：別紙参照

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 会長あいさつ

4. 委員紹介

5. 議題

(1) 策定スケジュールについて

資料に基づいて事務局より説明を実施。

(委員A)：今後開催される会議について、おおよその時間を教えていただければありがたい。事前にわかるか。

(事務局)：会議の日程については事前に告知させていただく。会議時間は2時間程度、会議内容は工程イメージの通りに進めていくことを想定している。

(会 長)：第2回会議については2時間程度であると想定するが、第3回の会議は協議する内容としても、3時間程度になる可能性があると思う。計画の内容を審議するので、長くなる可能性もあるとご認識いただければと思う。

(委員A)：承知した。

(会 長)：計画の構成について、今までは総合戦略と総合計画の2本立てになっていたところを、今回1つにするとの説明があった。策定する計画は1冊だが、中身としては計画2つ分という認識で良いか。

(事務局)：その通り。中身は従来の2つだが、完成品としては1冊の計画書となる。

(会 長)：本日の審議会の開催にあたって、午前中に作業部会・策定委員会が開催されている。作業部会・策定委員会で出た意見について、概略で良いので説明をいただきたい。

(事務局)：係長を中心とした作業部会と、課長職での策定委員会を開催しており、作業部会については特に意見はなかった。

策定委員会では、町民アンケート、ワークショップと庁内の進捗評価に関するスケジュールについて意見が出た。現行計画の効果検証について、アンケートやワークショップも踏まえた評価を行うために、スケジュールとして前倒しできないかという意見であった。可能な限り調整しつつ、並行して出来る部分は進めていければと考えている。

また、アンケート項目が多いという指摘もあった。町としては住民に様々な項目を聞きたいが、住民に負担がかかる。審議会においても案があればいただきたいと思うし、こちらでも検討を進めたいと思う。

ワークショップについての意見として、進め方についての意見は特に無かったが、外国人の受け入れなどに関しての意見を聞くべきという話が出た。テーマ等検討していきたいと思う。また、ワークショップには、係長級未満の若手職員に参加を依頼する予定としている。係長級は部会で、課長級は策定委員会で意見を伺うので、若手職員の意見を聞く場としてもワークショップを活用していければと考えている。

(2) 町民アンケート調査票について

資料に基づいて事務局より説明を実施。

(委員B)：アンケートに関して、過去や他の回答率はどのくらいなのか教えてほしい。

(事務局)：総合計画策定に向けたアンケートでは、回収率は概ね4割程度となっている。前回は39.8%、前々回が38.5%。統計上アンケートは400票集まれば多古町の民意が反映されたものになる。他自治体や最近の傾向からみると、回収率としては高い方。3割程度が平均かと思う。しかし、回収票が多いことに越したことはない。町としても広報誌やインターネット、防災無線などで呼びかけをしていく。

(委員B)：比較的回収率が高いと思うが、今回は質問項目が多いので、どこまで回答をいただけるのだろうかと思う。回収率アップに向けて、回答者への謝礼などの取組は行えるか。

(事務局)：多古町で実施するアンケートに関して、今まで謝礼品を用意したことはない。また、対象を抽出して実施することから、アンケートが届かなかった方には謝礼品を受け取る権利が与えられず、不公平なところもあり、そういった対応は慎重にならざるを得ない。町の意向としては物で釣ることなく、まちづくりを大切だと思っている人に回答してもらいたいという思いを持っている。

(委員B)：アンケートに回答した方以外の皆さんの意見を吸い上げる方法も考えていけると良いと思う。

(委員C)：この資料が届いたときに、アンケートを実際にやってみたら1時間かかった。設問数の多さもあると思う。また、今回の対象者は16歳以上となっているが、この年代の若者に配られた場合、分かりづらい項目が多いと思う。

実際16歳の子にこのアンケートが来たとしたら、恐らく親も一緒にやる。その際に子どもはこのアンケートをやって何か意味があるのかを親に聞くと思う。その時に総合計画や総合戦略といったところが分からないと答えづらいだろう。

(事務局)：このアンケートは、今後のまちづくりの計画策定に向けて実施するものであると、分かりやすく明記することも考えていければと思う。配慮してできるだけ行政用語を排除してわかりやすくすることも考えたい。

(委員C)：回答する意義・意味を感じるために、例えばアンケート活用事例などを参照できるようにすればいいのではないかと思うがいかがか。

(委員D)：アンケート配布時に、前回のアンケートを受けて実現できたものなどを封入すればア

ンケートに対する考え方も違うのではないか。

(事務局)：前回のアンケート結果についても公表はさせていただいており、町のホームページに掲載している。最終的には冊子にした総合計画においても抜粋ではあるが、結果の概要を載せている。

(委員C)：アンケートとワークショップ、総合計画がどのようにリンクしているのかが分かりづらい面もあると思う。そのあたりも記載の検討をお願いする。

(委員E)：アンケートの回答のしやすさ・書きやすさと、回収率にどれくらい関係があるのかは分からないけれど、設問数の多さは回収率に関係してくるのではないかと思う。

(事務局)：問題数は他の自治体と比べると少ないくらい。しかし、設問項目が多いので、回答する町民視点だと多く感じるだろうとは思っている。設問の取捨選択を改めて考えたいと思う。また、アンケートの表紙に総合計画などに関する説明は記載したい。分かりやすいアンケート票にしたいと考える。

(会長)：WEBでのアンケートの回答率は、過去事例だとどのくらいか。

(事務局)：一般的に、WEBでの回答は2～3割程度。

(会長)：WEBでの回答は、回答者が限られる限定設問を省いて示してくれるので、回答する側としては大変楽になる。また、回答の途中で「もう少しだから頑張ろう！」などの文言を付け加えることで、もう少しなら回答するか、という気持ちになってもらえるような工夫も出来るとより良いと思う。

(事務局)：進捗バーを示せるかどうか、確認させていただく。また、調査票にも「ふっくらたまこ」を載せるなどの視覚的な支援をしたい。

今回の調査は問題数としては少ないが、Well-being を載せたことでボリュームが増えている。そしてこのようなマトリックス形式の設問は、WEB、特にスマホなどの小さな画面では1問回答するごとに次へ進めなくてはならない形となる可能性もある。ボリューム感については再度検討させてもらいたい。

(会長)：デジ田戦略という方針も踏まえると、こういった形でのアンケート実施は必要な措置であると思う。回答しやすい調査をお願いする。ちなみに、これまで多古町でWEBアンケートを実施した事例はあるか。

(事務局)：総合計画策定に向けたアンケートでは初めての実施となる。過去には交通計画等で実施した例がある。そちらのアンケートでは全体の3割程度がWEBで回答された。

(会長)：前々回、前回と回収率は上がっている。今回のアンケートに関して、回収率の目標はどれくらいか。

(事務局)：あくまでも目標ではあるが、前回・前々回が4割程度であったことを踏まえ、4割5分、可能なのであれば半数の5割の回収率となればありがたいと考えている。周知等、しっかりと取り組んでいきたい。

(委員A)：このアンケートは多古町を良くしていくための調査であるということだが、町民にしか配布されないのか。多古町で働く方など、多古町に関係する人がなにか意見を言える機会もあると良いと思うがいかがか。

(会長)：アンケートに町外の方を含めると、全体の母数が変わってしまうため難しいと思う。

(事務局) 意見募集の場として、企業や団体の方へのヒアリングシート配付も予定している。

(委員A)：承知した。

(委員F)：アンケートの問5の「改善度」と「満足度」は同じような結果になるのではないか。この問についての目的について教えてほしい。

(会長)：重要だと思われていない施策より、重要と思われている施策に力を入れていくという視点に向けた設問であると思う。特に、重要な事項だと考えているのに不満足である施策は、積極的に取り組まなくてはならない。改善度が高いが、これでは満足できないという場合もある。計画のどこに重きを置くかを考えるための重要な設問であると思う。

(事務局)：前回調査においては、「改善度／満足度・重要度」という2問の形になっていたものを、今回調査では1問とした形。同じような結果になる可能性もちろんあるが、改善度と満足度は異なる視点ではあるので、設問数との調整も含めて再度検討させていただければともう。

(3) ワークショップについて

資料に基づいて事務局より説明を実施。委員からの意見は特になし。

(4) その他

各課に記入依頼する施策評価・立案シートについて事務局より説明を実施。

(会長)：各課の施策の進捗状況を整理したものが挙がってくるという認識で良いか。

(事務局)：その通り。

(会長)：とりまとめの資料作成に時間をかけるのではなく、とりまとめた結果を計画にどう反映したか、そのあたりを整理した説明を、会議ではお願いできればと思う。

6. その他

(事務局)：次回会議については、10月の中下旬を予定している。日程については改めて連絡させていただく。

7. 閉会

以上